

～「遊び」にとことん夢中になろう！～ 魅力的な環境の1つとなる園庭を目指して園庭環境整備に取り組んでいます！

こんな園庭作りに取り組んでいます

- 子どもの意欲『やってみよう！』を実現できる園庭。
- 「こころ」「からだ」「あたま」をフル稼働させて挑戦できる園庭。
- 子ども自らが力を見極め、そのときの限界を知り、諦めたり、また挑戦したりしながら葛藤したり勇気を出して乗り越えたりすることができる園庭。
- 子ども一人ひとりの様々な育ちの段階に応じて成功体験を味わえるように、難易度が異なる環境が用意されている園庭。
- 0～5歳児が共存し、安心して楽しめる園庭。
- 水・土・砂・草・花・木・木の実などの自然物を充実していく。
- 本物の道具を用意し、使いやすさの手ごたえを感じたり、その危険性を認識し、使い方について自ら気をつけ、学んでいけるようにしていく。
- 道具をきれいにしまいたくなるような道具棚を設置し、物を大切にすることを高めていく。
- ホッとできる・一息できる空間を用意する。



「この高さから一輪車で下っていけるかな？」
「このスコップ掘りづらいな～もっと大きな穴にしたいな」



【一本橋が初めてできた日とこれから大切にしたいこと】

R2年の夏、南園庭に中級・上級の一本橋を設置しました。

初めて一本橋を見た子どもたちは、すぐに飛びついて登ってみようとする子、気にはなるけど遠目で見ている子、何度も挑戦するけれど登れなくて自分に腹を立てる子など、様々な思いと挑戦を見せてくれました。

自分で試してみて「挑戦し続けてみようか」「今はやめて、友だちが挑戦している姿を研究しようか」などという思いを子どもたちなりに抱き、葛藤するでしょう。

そういう時は、子どもの気持ちを尊重し、見守っていきます。特に、「やってみて、できるって」「こわくないから」「手伝ってあげる」などと大人が声をかけたり、手伝って乗せてしまうと、無理をしたり、自分の感覚を狂わせてしまい、大きなケガにつながってしまいます。

他の屋台やステージなども同じことが言えます。

いろいろな遊びに夢中になる中で、いろいろな筋肉が発達し多種多様な動きを獲得します。大きなケガを回避できる身のこなしを身につける過程で、小さな失敗、小さなケガを繰り返します。このような経験を繰り返し、かなり高いところに『自力』で登れた子に落下事故はほぼありません。一步一步、高さの感覚をつかみながら登っているためです。子どもの正しい経験を積んでいくために『手伝わない』ことを子どもたちにも徹底していきますので、ご協力ください。